

**中国の原子力関係情報**  
**——中国核能行業協会【中国原子力産業協会、CNEA】ホームページより抜粋——**  
 (中文仮訳概要)

**2009/3/8 五大電力公司是原子力発電に“つば”**

3月6日、大唐集團の董事長は、五大電力（華能、大唐、国電、華電、中電投）は今年、原子力発電につばをつけ、長期展望を開きたい考えだと語った。

(情報源：京華時報)

**2009/3/6 李永江：中国の原子力発電産業の発展には国産化新技術を重視**

全国政協委員・秦山原子力発電聯営有限公司の李永江 董事長は、次のように語った：第3世代原子力発電技術を導入するとともに、第2世代プラス技術で原子力発電所を建設する。自主開発比率はまだ低く、秦山Ⅱ期拡張工事60万kW基以外に国産原子力発電技術はない。

(情報源：第一財經日報)

**2009/3/6 秦山原子力発電所地域は、国内初の「原子力発電産業バレー」に。**

(新華社3月5日) 秦山原子力発電所は中国初の原子力発電所で、華東地区への送電とあわせて周辺地域經濟の牽引役を負っている。進行中の秦山Ⅰ期拡張工事(方家山)が完成すれば、総設備容量630万kWの中国最大、炉型最多、国産化率最高(80%)の原子力発電基地となる。目下、国内初の、広さ5k㎡の「原子力発電産業バレー」が建設中である。すでに、5企業が進出した。

(情報源：新華ネット)

**2009/3/6 河南省が發展、電力需要の急増、6,000万kW不足に**

河南省の一人当たりの発電設備・電力量は、全国平均の75%前後。2020年までに同省では、発電設備を6,000万kW以上増やす必要がある。

発電設備は現在90%が石炭火力。環境影響の点から石炭の大量使用は受け入れがたい。このため、同省では、2020年頃までに1000万kW以上の原子力発電が必要になることから、2003年から原子力発電前期工程をスタートした。

(情報源：大河ネット、大河報)

**2009/3/5 国家核電技術有限公司、パキスタン向け原子力発電所設計を開始**

3月1日、国家核電技術有限公司傘下の上海核工程研究設計院が正式に、パキスタンのチャシュマ原子力発電所3号機、4号機の設計を開始した。

(情報源：国家化核電技術有限公司)

**2009/3/4 米国のインベンシスシステムズ社、中国で民生用原子力サービス提供**

(北京3月3日) 米国のインベンシスシステムズ社は、北京で、「中国民生用核安全設備活動海外機関 登記確認書」(HAF604 認証)を得たと発表した。

(情報源：中国ニュースネット)

**2009/3/4 四川省、原子力発電支持を呼びかけ**

四川省駐在の全国政治協商委員が、国に対し、四川の原子力発電 I 期工程を四川地震後の経済復興、発展のための特別プロジェクトとするよう支持を要請した。

四川省には水資源は豊富だが、石炭資源が乏しい。四川では 2003 年に原子力発電前期作業がスタートし、これまでに準備作業が整ってきた。四川プロジェクトは、100 万 kW が 4 基。うち I 期工程は 100 万 kW 2 基。総投資額は約 229 億元。2005 年末、国に提案書が送られた。2008 年 4 月再提案。2008 年 11 月中広核集団、華潤電力公司、四川省核電事務所が四川核電プロジェクト協議書に署名した。(情報源：四川日報)

**2009/3/4 李永江：中国の原子力発電開発は内陸に向かう**

3 月 3 日、全国政協第 11 期第 2 回会議が北京で開かれ、秦山核電聯営有限公司の李永江董事長は、次のように述べた。

「中国の原子力発電所は現在、東南沿海地域に集中しているが、安全性の点から内陸に向かわざるを得ない。すでに 20 の省が今後原子力発電関係プロジェクトを進める予定である。人々は原子力発電所の安全運転を心配するが、実際非常に安全で、長年の経験がそれを実証している。中国の原子力発電の安全レベルは高い。国際原子力事象評価尺度は 7 段階分類であるが、中国で発生した原子力事象はレベル 1 だけである。原子力大国フランスでは、60～70%の原子力発電所が内陸にある。原子力発電はクリーンなエネルギーで、経済価値、社会価値が高い。今後中国は内陸で原子力発電所建設を進める。」(情報源：中国経済ネット)

**2009/3/4 核物理専門家、中国の核科学人材の不足を指摘**

朱志遠 全人大代表・中国核物理学会副理事長は 3 日、新華社のインタビューで次のように述べた。

中国では近年、原子力発電をクリーンで潜在力の高いエネルギーとみなしているが、ここ数十年人材育成を重視していなかったことから、とくに基礎研究分野の人材育成を急ぐ必要がある。(情報源：新華ネット)

**2009/3/3 張国宝 国家エネルギー局長：中国の原子力発電技術は自主開発で**

地球温暖化問題への対応から原子力発電熱が世界で高まっている。中国でも原子力発電を積極的に推進するとともに、社会の各方面で原子力発電への関心が高まっている。今回、張国宝 国家発展改革委員会副主任・国家エネルギー局長は、新華社ネット、国家重大技術装備ネットのインタビューに答えた。

Q 1：原子力発電に多くの国民が関心を持っているが、原子力発電建設の全体像がよくわからない。

A 1：中国の原子力発電設備は 910 万 kW で、全体の 1.3%、2007 年の発電量は全体の 1.9%だった。原子力発電の迅速な開発のため、国家核電技術公司を設立し、第 3 世代技術設備開発を進め、大型先進 PWR、高温ガス炉プロジェクトをスタートし、また遼寧紅沿河、福建寧徳などに着工した。I 期プロジェクトは 100 万 kW 4 基。昨年 11 月、広東陽江、せっこう省秦山の拡張工事が国务院で承認された。

このように中国の原子力発電開発の環境は良好。社会に一部懸念はあるものの、

原子力発電が中国のエネルギーの持続的発展に必要なことが認識されている。現在の中国の原子力発電には、「天の時、地の利、人の和」が備わったといえる。

Q 2 : 2020年までに4,000万kWの原子力発電計画を7,000万kWに引き上げ調整の報道もあるがどういう調整か？

A 2 : ネット上で7,000万kWとか10,000万kWとかいわれているが、いずれも正しくない。調整の結果をまだ公表していないが、能力的に当初計画の4,000万kWは超えそうだ。発展を加速するには科学的に検証を進めることが必要だ。2020年までに原子力発電設備量を大幅に増やすことになるだろうが、具体的数字をあげることは難しい。

(以下省略)

(情報源：新華ネット)

### 2009/3/2 第3世代 三門 ニュークリアアイランド工程契約式典 北京で

2月28日、第3世代原子炉国産化プロジェクトAP1000（三門I期）工事のニュークリアアイランド工程受注契約式典が北京の釣魚台で盛大に行われた。

式典では、国家エネルギー局孫副局長、国家核電技術公司の王董事長、余劍峰中国核工業集团公司副總經理・三門核電有限公司董事長らが出席した。

### 2009/3/2 世界発のAP1000 原子力発電プロジェクト月末着工へ

(人民ネット、北京3月1日) 2月28日、第3世代AP1000国産化プロジェクト(三門I期)ニュークリアアイランド工事契約式典が北京で開催され、世界初のAP1000原子力発電所は新たな段階に入った。

国家エネルギー局の孫勤副局長は式典で、「中国の内陸の原子力発電所はAP1000をメインとし、また新規原子力発電プロジェクトは沿海地域でもAP1000を主とする」と述べた。

(情報源：人民ネット)

(以上)